



【あすみんノート】

2022 Summer

No. 28

Live without border

Special Issue

世界の課題と向き合う

Voice

大谷賢二(一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン)

GOOD ACTIVITY FILES

特定非営利活動法人九州海外協力協会
Dress for Two

@DATA

九州から国際協力

Asumin Information

Asumin Recommend

あすみんのWi-Fiが変わりました

Horodana!

あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣

Organization Introduction

登録団体紹介:登録番号808~827

VOICE

ボイス

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)

大谷賢二さん

Kenji Otani

学生時代と反戦運動

私の学生時代はベトナム戦争真っ只中でした。米国のファントム偵察機が九州大学に墜落した後で、周りの学生のほとんどが反戦平和の運動をしていました。ただ一部の学生は、アメリカの侵略戦争に協力する日本政府に反対するために

は、暴力も辞さない態度をとっており、私はそのやり

方では、多くの民衆の同意を得られないと思っていました。国民が同じ方向を向き、大衆を巻き込まないと社会に大きな変化は起こせない。暴力では、国民に支持されるわけがない。大衆運動を信じて活動していました。そんな思いで生きていたので、アメリカ追従の政府系省庁や、兵器生産や販売に関わっている大企業へは就職しませんでした。それまで政府を批判していた学生がいきなり信念を曲げるような、そんな中途半端なこと、大衆を裏切ることはできなかった。平和への思いは生涯のものですから。

カンボジアとの出会い

大学を卒業してからは多くの国を見て回りました。もともと好奇心が旺盛な性格なので、気になるこ

今号のVOICEでは、カンボジアの地雷をゼロにし、そこで暮らす人が安心して生活できる世の中を作る「一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン」の大谷賢二さんにお話を伺いました。

とがあればまずは自分の目で見て確認する。知ったら行動に移してみる。好奇心、向上心、行動力、これが私の人生の指針です。その後、20代で起業しましたが、時間をつくっては海外に行きました。カンボジアには、1996年に初めて行きました。カンボジアで最初に気づいたのは、手足のない人たちが目も見えない人が多いということでした。その原因が、ベトナム戦争の後に起きた内戦で使われた地雷によるものだと分かりました。地雷被害者たちの悲惨な姿は、この活動を始めるきっかけとして、十分なものでした。私はこの悲惨な現状を何とかできないかと、現地の地雷撤去組織や、義足センターを尋ねました。すると、75セント(約100円)で、一平方メートルの地雷原を安全にすることができ、25ドル(約3,000円)あれば、膝から下の義足が作れることがわかりました。地雷を撤去するには、何億円とお金がかかるので、実現は困難だと考えがちですが、考え方を変わると、私でもできることがわかりました。その当時は、会社の経営者として接待や会合で食事に出ることが多かったのですが、その際に使うお金の使い方を変える

だけで貢献できるのです。

カンボジアでの活動

2000年に、世界で最も地雷被害が多い地域と言われたカンボジアの、バタンバンに現地事務所を置き、活動を始めました。現地人スタッフだけの時はトラブルも多かったのですが、2004年には、日本人が駐在する事務所になりました。そこでは、地雷原を綺麗にするためにブルドーザーを送ったり、農民に日本式の農業を教え、直蒔きから田植え方式に変えるなど、さまざまな活動をしていました。その頃にはCMCの活動がメディアで大きく取り上げられるようになり、認知度も上がって、全国から寄付が集まるようになってきました。集まった寄付は、地雷撤去のほか、カンボジアの人たちの命を守るために綺麗な水を飲める環境を整えたり、学校建設や、カンボジアの憲法で保証されているはずの義務教育を実現するために必要な教材を提供するのに使っています。

地雷撤去した土地はどうなりますか？

地雷を撤去した土地をどのように

使うかは、現地の人に決めてもらっています。農地にしたいと言ったら農業ができるように土地を耕したり。ただ、親たちの多くは、自分が出来なかった分、せめて子どもには、読み書きや計算ができるようになってほしいと願っています。カンボジアの憲法では、小・中学校を義務教育と定めています。都市部では機能していますが、地雷原の村などローカルでは学校すらありませんでした。今では私たちが建てた学校も6校となり、教育環境も改善されつつあります。



▲今なお多くの地雷が見え隠れしている

地雷の恐ろしさとは？

地雷は「悪魔の兵器」と呼ばれるくらい恐ろしいものです。安価な上、人間が生きていくために必要な土地を使えなくしてしまいます。また、戦争の時は敵の兵隊が攻めて来られないようにするために使われると言われますが、実際には兵隊の被害はほとんど出ていません。今一番被害を受けているのは一般市民、特に農民の方たちなんです。戦争に無関係の女性や子どもに被害が出ることも、この兵器の恐ろしさといえます。

私たちが活動をはじめた25年、地雷被害者の数は100分の1以下に減りましたが、まだ約1700km²の危険地帯が残っています。

国内での活動 学校での講演会について

日本の小・中・高校での授業や、大学での講義で地雷撤去に関する講演をします。カンボジアの現状や課題、私たちの活動、どうしたらこの課題を解決できるか、また、どのように課題に向き合うかなどを話すのですが、とくに、小・中学校での授業の時は、写真を多用してゆっくりと、わかりやすく話すことを心がけています。

21世紀の今、同じくらいの子が被害に遭っている、水道も電気も来ていない中で生活したり、学校にも行けず働いている。これまで日本での生活が当たり前だと思っていたことが、そうではないと知った子どもたちは、その事実が驚きます。

そして、授業が終わると、自分たちにできることを考えるようになります。実際に私の話を聞いた後で子どもたちの目の色が変わるのがわかります。そしてそれを実践するため、ペットボトルを集めたり、空き缶、書き損じハガキの回収など、それぞれが考えて行動をします。私たちのツアーに参加してカンボジアに来てくれた子もいました。カンボジアが農業国なので自分たちもやってみようと思えば稲刈りまで米作をして、資金作りをし



▲酷暑の中、地雷に触れないよう、慎重に探している様子

た学校もありました。その姿に感動を覚えます。

カンボジアで地雷撤去活動をし続けるということ

私はカンボジアや地雷の問題だけが解決すればいいとは決して思いません。もちろん今のウクライナや、ミャンマーのことを思えば胸が痛くなります。だけど、私も一人の人間ですから、あれもこれも手を出していいなら、全て中途半端になりかねません。他の国の問題には取り組まないんですか？と聞く人もいますが、そう思うなら本人がやればいいのです。まずは自分が感じた問題に対し、何をすればいいかを考え具体的に計画します。そして、思いついたらすぐ行動。少しでも実現できるようになったら、更にできるように向上心を持つ。そうやって、問題を突き詰めていくことが一番大事だと思います。

団体のこれから

CMCは立ち上げた時から、その存在が無くなることを目標に活動して来ましたが、なぜならCMCが必要だということは、地雷被害者が出続けることを意味するからです。また、もちろん組織の存続が必要で、引き継ぎたいという人がいれば支えるつもりはありますが、私の経験自体は引き継げないし、その場合は本人が設定した目標に向かって、その人が課題と思っていることに情熱を注ぐべきだと思います。そして、私たちの次の世代では、地球から飛び出して、宇宙の問題を考える世の中になっていると思います。子どもたちは国境などで争うのではなく、みんな同じ「地球人」として、いろんな課題に向き合ってほしいですね。私は地球人として生ある限りライフワークとして地雷問題に取り組んでいく所存です。



▲カンボジアのためにできることを行う子どもたち

一般財団法人 カンボジア地雷撤去 キャンペーン

1998年に団体を設立。地雷撤去支援のほか、地雷被害者支援や地雷原での学校建設、現地ラジオ番組の制作・放送などに取り組んでいる。また、コロナ下でも、書き損じハガキの回収やクラウドファンディング、企業・団体からの協力などによって、現地の中学校の増築などを実施している。

<https://cmc-net.jp/>

GOOD ACTIVITY FILES

グッド・アクティビティ・ファイル

このコーナーでは「社会にイイ活動=Good Activity」を行っている団体をご紹介します。ボランティアに参加したいときや、自分たちの団体とつながる仲間を探すときなど、ぜひ参考にしてください。

41 すべての人々がお互いを尊重し 認め合える世界の実現を目指して

特定非営利活動法人九州海外協力協会

国際協力活動の経験を生かして、世界の問題解決を目指しています。特に「教育」の重要性を感じており、各学校や団体へ講師を派遣し、「世界や日本の現状」を体験する講座などを行っています。前述のとおり、多くの途上国で活動してきましたが、日本のように素晴らしい国はありません。日本各地が元気になるような、地域創生活動も実施したいと考えております。そして世界へ笑顔を発信!



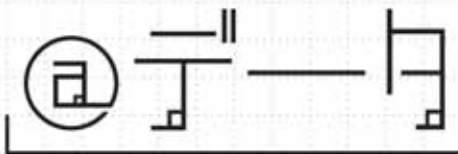
42 おしゃれで世界は変わる ドレスでつながる希望のかけはし

Dress for Two

生命力あふれる色彩・個性的な柄が特徴のアフリカ布(キテンゲ)でつながる活動です。一つの布をルワンダと日本で「はんぶんこ」し、2つの服を作ります。1つの服を購入する日本側が少しだけ多く費用を出すことで、ルワンダのスラムに住む女性たちも手の届く価格でおしゃれを楽しめます。両国の女性がおしゃれと喜びをわかちあえる仕組みです。



▲地雷は、年齢性別問わず、誰でも傷つける恐ろしい兵器



「@データ」は、市民公益活動に関わるさまざまな「データ」をもとに、詳しい方の意見を聞いたり、考えるきっかけをつくるコーナーです。

Tag:

#九州から国際協力

教えてくれた方

JICAデスク 福岡
国際協力推進員

鬼丸 武士

Takashi Owimaru



信頼で
世界をつなぐ

★Data1

福岡からも世界へ派遣されています

JICA海外協力隊 年度別・福岡県派遣実績表



国際協力とは

JICA(独立行政法人国際協力機構)は、日本のODA(政府開発援助)を一元的にあつかう実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。日本でも、戦後復興の際には、多くの国の支援を受けた経緯がありますが、日本が支援をする側となったのは、ODAとして1954年にアジアや太平洋地域の国々を支援する「コロンボ・プラン」への参加が始まりです。世界195カ国のうち150カ国以上が開発途上国とされ、その多くは貧困や紛争といった問題を抱えています。グローバル化が進む現代では、国籍に関わらず世界中のすべての人々がより良く生きられる未来を目指し、世界各国が力を合わせて取り組む「国際協力」が求められています。

JICAを通じた国際協力

JICAの国際協力は、技術協力、有償資金協力和無償資金協力の3つに分けられます。「技術協力」には日本の人材を途上国に送り出す「市民参加協力事業」があります。この事業は日本のNGO、大学、自治体等が企画した途上国への協力活動をJICAが支援・共同する「草の根技術協力事業」、民間企業の優れた技術やアイデアを途上国の課題解決に活かす「中小企業・SDGsビジネス支援事業」、そして自分の技術や経験を生かし途上国の人と共に活動したいという人を派遣する「JICA海外協力隊」があります。「JICA海外協力隊」【Data1・2:グラフ】は、9つの分野と190以上の職種があり、帰国後も途上国での活動経験を生かして、国際協力や日本国内の地域活性化などで活躍しています。

福岡からの国際協力

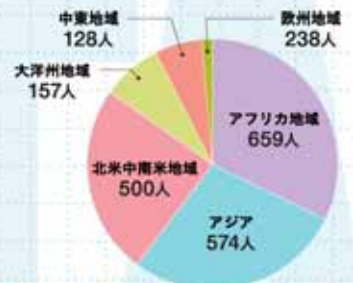
国内での活動として、久留米を拠点とする「一般社団法人JA-NeU」を紹介します。アフリカ・マラウイ出身のローレンスさんとJICA海外協力隊としてマラウイに派遣された庄田さん(現・副代表)がJICAのイベントを通して出会い始まりました。「支援ではなく共創を」を合言葉に、久留米と現地の小学校と一緒にオンライン授業をするなど、日本とマラウイをつなぐ活動を行っています。今回、JICA基金に牛糞を活用した堆肥づくり事業を申請し、採択されました。団体のビジョンである「日本とアフリカをつなぐことで生まれる新たな可能性を見出し、それを形にしなが共に成長する」が実現するよう活動を支援していきます。

これからの国際協力

NGOなどの非営利組織向け支援策として「草の根技術協力事業」は、事業規模が大きくハードルが高いかもしれませんが、NGOがチャレンジしやすい枠として「JICA基金活用事業」があります。多様なNGOの皆さんに参加していただきたいです【Data3:国際支援にチャレンジ】。「中小企業・SDGsビジネス支援事業」は、比較的新しい事業です。ビジネス化につながれば、国際協力としても持続可能性が高いものだと思いますので、NPOの皆さんにも地元福岡の企業と一緒に展開を考えてほしいです。また、日本国内では、多くの外国人の方が地域社会で暮らしています。多文化共生を今以上に進めて、同じ市民として住みやすい街づくりを進めるために途上国での国際協力活動で得た知見を生かして貢献していきたいです。

★Data2

地域別JICA海外協力隊 累計派遣者数(福岡県)



★Data3

国際支援にチャレンジ

草の根技術協力事業

- ・草の根協力支援型
3年以内、上限1千万円
- ・草の根パートナー型
5年以内、上限1億円

世界の人びとのための JICA基金活用事業

- ・通常枠
1年以内上限100万円
- ※チャレンジ枠では伴走支援者付き



あすみんのオススメ Asumin Recommend

あすみんのWi-Fiが変わりました

2022年4月1日より館内で提供しているフリーWi-Fiが、これまでの「Fukuoka City Wi-Fi」から「あすみんWi-Fi」に替わり、オンライン会議や講座など、より一層使いやすくなりました。「Fukuoka City Wi-Fi」につきましては、ご使用いただけなくなりましたので、ご注意ください。パスワードによるログインとなりますので、窓口や館内に設置してある案内板でご確認ください。



ネットワーク名、パスワードは館内の案内板をご確認ください

ホンダナ! Hondana!

あすみんの図書コーナーに所蔵している書籍をご紹介します!

あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣



ISBN:978-4-04-605554-5
定価:1,540円(本体1,400円+税)
判型:四六判
ページ数:288

2030年までに達成すべき目標として掲げられているSDGs。あなたは、その先にある「社会問題」を正しく理解出来ていますか?本書では、世界で起きている貧困・環境・資源・紛争といった問題と、私たちの生活との繋がりに目を向け、「世界を正しく見る習慣」の大切さを伝えます。私たちの行動は本当に世界のために役に立っているのか、そのことを改めて考えさせてくれる一冊です。

【著者】原 貴太
【発行社】株式会社KADOKAWA
【発行年】2021年

登録団体紹介 Organization Introduction

あすみに登録された団体を紹介します。(登録番号808~827)

- NPO法人おとむらい牧師隊
- NPO法人Coco音
- 離婚と相続のADRセンター
- HUG組Lab
- テクノロジー犯罪被害ネットワーク福岡
- NPO法人日本ドローンサポート振興協会
- 視覚障がい者と支援者の会
- NPO法人いるか
- 緑 Ms.
- NPO法人食空間コーディネイト協会
- NPO法人福岡てらこやあそび
- キッズマネースクール ゆかいななかまたち校
- team そうしーず
- (一社)茶道裏千家淡交会 福岡支部
- こども・若者の自立を考える会
- 一般社団法人くられんごう
- グリーンリンク
- LifeWave サポート
- 福岡ネパールソサエティ
- NPO法人LOCUS・虐待サバイバーをつなぐ会

団体登録更新のお願い

令和4年3月31日までに登録された団体は、現在更新期間中です。引き続き、あすみんをご利用になるには、期間中に手続きが必要となります。

●更新期間
6月1日~8月31日

更新に必要な書類は窓口へお問い合わせください

利用団体登録について check!

あすみんでは、施設やサービスを利用される団体に関して、利用団体登録をお願いしています。福岡市内で活動し、市民公益活動に取り組む団体(主にNPOやボランティア団体)が対象となります。登録に必要な書類は、下記の(1)~(6)になります。ご記入のうえ、窓口までお持ちください。また、(7)は登録の際にご持参ください。登録申請時には、書類の確認・面談を行います。

- 登録に必要な書類
- (1)福岡市NPO・ボランティア交流センター施設利用許可申請書(団体)
 - (2)団体の運営に関する規則(定款、規約、会則等)
 - (3)活動計画書
 - (4)これまでの活動実績がわかる資料
 - (5)役員名簿
 - (6)自己チェックシート
 - (7)申請者本人確認書類(運転免許証、健康保険証など)

福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん

【住所】〒810-0021 福岡市中央区今泉1-19-22 天神クラス4F
【TEL】092-724-4801 【FAX】092-724-4901
【MAIL】info@fnvc.jp 【HP】https://www.fnvc.jp
【開館時間】月~土曜 9:00~22:00 日・祝日 9:00~18:00
【休館日】第4水曜日、年末年始 12月29日~翌1月3日
【facebook】https://www.facebook.com/asunoshimin/



お越しの際は公共交通機関をご利用ください

- 地下鉄をご利用の場合 ●七隈線「天神南」駅 1番出口から徒歩6分
- バスをご利用の場合 ●西鉄バス「今泉1丁目」徒歩1分
- 電車をご利用の場合 ●西鉄福岡(天神)駅 南口から徒歩5分



HP



facebook

